



吉川小だより 12月号

京都府亀岡市立吉川小学校

令和7年11月28日発行

〒621-0014 亀岡市吉川町穴川平田17番地 TEL 0771-22-1210

E-Mail el-yoshikawa@edu.city.kameoka.kyoto.jp



タスキでつながる仲間

朝晩はめっきり寒くなり、もう冬と言っていくくらいの季節になってきました。冬と言えば、駅伝です。今月8日（土）には亀岡市小学生駅伝（持久走）大会が、15日（土）には京都丹波キッズふれあい駅伝が開催され、本校からは5・6年生の中で出場を希望した児童が選手として参加しました。

どちらの駅伝も、走る距離は1人1200mです。本校の運動場を約9周走ることとなります。これは、小学生にとって簡単に走りきれる距離ではありません。なので、当日に向けて登校後や体育の時間に、それぞれ練習を積み重ねました。

そうやって迎えた8日の本番。絶好の秋晴れのもと、子どもたちは懸命に走りまわりました。そして、素晴らしいことに、出場したすべての選手が自己記録を更新しました。さらに、15日は近隣2市1町の28小学校から出場する大きな大会でしたが、さらに記録を縮めることができました。本当に、よくがんばりました。

なぜ、子どもたちはこのように成長することができたのでしょうか。その答えはタスキの力ではないか、さらに言い換えれば、タスキをつなぐ仲間の存在が大きかったのではないかと私は考えます。

同じチームの仲間が1200mを走り抜き、へとへとになりながら必死にタスキを運んでくる。「後は任せろ！」と言わんばかりに、タスキを受け取って、すごいスピードで飛び出していく次の走者。その姿のなんと美しいことか。

体調不良のため、当日出場できなかった仲間もいました。もしかしたら、その仲間の分まで走ってやろう、という気持ちも生まれていたかもしれません。

一方、先日全校で長距離走の学習に取り組みました。中には、長距離走が苦手そうな子どももいます。始まる前はたいへん緊張している様子も見られました。

スタートしてみると、駅伝メンバーは練習の成果を発揮して、黙々と走っています。さすがです。一方、苦手な子どもたちにも驚かされました。いつもはしんどくなって途中で止まってしまっていたようですが、今日は止まりません。その背中を、みんなの声援がさらに力強く後押しします。とうとう完走までたどりつきました。

「今日は、最後まで走れたで！！」というちょっぴり自信にあふれた子どもの表情は、いつにも増してきらきらと輝いていました。



校長 谷口 浩之